

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成29年度）

— 研究課題 2 中学校 —

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
-------------	---	------------	-----

公立 ・ 私立 ・ 国立 (○で囲む)

1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくはこだてちゅうがっこう 北海道教育大学附属函館中学校				ふりがな 校長氏名	かねみつ ひでお 金光 秀雄
所在地	〒041-0806 北海道函館市美原3丁目48番6号 電話 0138-46-2233 FAX 0138-47-6769 e-mail kimura.nana@h.hokkyodai.ac.jp					
(H29.4.1見込)	1年	2年	3年	計	(H29.4.1見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む)	
学級数	3	3	3	9	教員数 18名	
生徒数	105	109	106	320	[調査研究にかかわる教科等の教員数] 3名	
特記事項						

2 研究主題等

教科等名	数学	教科課題番号等	1
学校における研究主題	思考力・判断力・表現力等の育成を図るための具体的な授業の在り方と評価方法等の実践研究 ～数学的活動への取組を促し、新たな疑問や問いを導き出すための単元構成の工夫・改善～		
研究主題設定の理由	<p>1 学校の現状や課題</p> <p>本校では、平成25年度から平成27年度まで「今、求められる21世紀の学力の育成を目指して」という学校研究主題のもとで、これからの社会において求められる資質や能力の育成を目指した研究計画を立て、各教科における基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習の工夫、開発や検証改善サイクルの整備、教科等横断的な授業展開を行い、一定の成果を上げることができた。しかし、単位時間の授業における課題解決による思考力・判断力・表現力等の育成は難しく、単元を通して意図的・計画的に実施することが課題としている。</p> <p>2 研究の目的</p> <p>本研究では、数学科において、思考力・判断力・表現力等の育成を図るべく、学習内容を通して新たな疑問や問いを導き出すための単元構成の工夫・改善に関する実践研究を行う。</p> <p>3 研究期間中に達成したい目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の内的な「新たな疑問や問い」を導く学習課題の設定の工夫・改善 ○生徒個人や生徒同士の疑問や問いをつなげることで構成される単元計画の作成 		

研究の内容	<p>数学科の問題発見・解決の過程において、授業冒頭に発生した疑問や問いの解決にだけでなく、問題解決の過程や結果において生じた生徒の新たな疑問や問いを、次の学習へつなげることのできる単位時間の構築及び単元構成に焦点を当てる。これにより、新たな疑問や問いを解決させることを通して、思考力・判断力・表現力を高める単元構成の工夫・改善に繋げることができると思う。</p> <p>具体的な取組の内容</p> <p>(1) 平成 28 年度までに数学科で設定してきた学習課題の整理・分析及び本校生徒の思考力・判断力・表現力の実態の分析を行う。</p> <p>(2) 分析した学習課題及び実態をもとにした問題解決的な学習の課題の工夫と単元計画の作成を行う。</p> <p>(3) 新たな疑問や問いを導き出す能力を見取るレポート課題の作成を行う。</p>
-------	--

3 研究体制等

研究部（副校長・研究部長等で構成）	
↓	
研究協議会（定例，本校全教員で構成）	←北海道教育庁渡島教育局、函館市及び渡島管内の 公立小中学校，北海道教育大学附属小中学校との連携
↓	
校内研究会・教科研究会（公開）	←北海道教育大学との共同研究
↓	
教育研究大会の実施と教科研究紀要の作成	←学校研究及び本研究に関する授業実践例等の提示

4 研究計画

	実施時期	研究内容，研究方法，成果の公開等	期待される成果等
平成 29 年度	前半	<ul style="list-style-type: none"> 学習評価の結果等を踏まえた教育課程の改善 年間指導計画及び評価規準の見直し 学習評価の在り方の再検討 本校及び渡島管内公立中学校での過去の授業実践における学習課題の整理・分析の実施 本校生徒の思考力・判断力・表現力の実態の分析 教育研究大会の実施及び年間指導計画に基づく授業実践 校内授業研究会の実施 カリキュラム評価の実施（1学期） 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画及び評価規準の見直し等により，単元のつながりや各単元の役割を意識した授業展開の工夫・改善が図られる。 学習課題の整理・分析や生徒の実態の分析により，効果的な学習課題の設定や新たな疑問や問いを発生させる手立てが期待できる。
	後半	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証 新たな疑問や問いを導き出す能力を見取るレポート課題の実施及び指導事項等の定着状況の検証 校内授業研究会の実施 カリキュラム評価の実施（2・3学期） 「平成29年度教育課程研究指定校事業」まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づく授業実践の積み重ねにより，計画的・効果的に思考力・判断力・表現力を高める手立ての工夫が期待できる。 ワークシートやレポート課題の記述内容から，学習者の学習内容の深まりを見取ることができる。

平成30年度	前半	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の実践や学習評価の結果等を踏まえた教育課程の改善 ・1年次の実践を踏まえた年間指導計画及び評価規準の見直し ・教育研究大会の実施及び年間指導計画に基づく授業実践 ・校内授業研究会の実施 ・カリキュラム評価の実施（1学期） 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の実践を踏まえた年間指導計画及び評価規準の見直し等により、単元のつながりや各単元の役割を一層意識した授業展開の工夫・改善が図られる。 ・改善された年間指導計画に基づく授業実践の積み重ねにより、一層計画的・効果的に思考力・判断力・表現力を高める手立ての工夫が期待できる
	後半	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づく授業実践及び研究成果の検証 ・新たな疑問や問いを導き出す能力を見取るレポート課題の実施及び指導事項等の定着状況の検証 ・校内授業研究会の実施 ・カリキュラム評価の実施（2・3学期） ・「平成30年度教育課程研究指定校事業」まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやレポート課題の記述内容から、1年次の実施と比較して学習者の学習内容の深まりの変容を見取ることができる。

5 研究のまとめの見通し

<期待される成果>

- ・単元構成の実践例として、問題解決の過程で導き出された新たな疑問や問いを整理・分析し、具体的に追試が可能になる単元構成表を整理することができる。
- ・学習者の問題意識に基づいて意欲的に新たな疑問や問いを発生させるための具体的な方策や実践例を示すことができる。
- ・問題解決的な学習によって学習者に育む資質や能力の評価方法の具体例を示すことができる。

<研究成果の検証方法>

- ・新たな疑問や問いが学習者の問題解決の過程において意欲的に導き出され、追究できるものであったかについては、ワークシートへの記述状況や学習者への質問紙調査等を用いる。
- ・評価方法については、本校研究部及び数学科に加え、大学や関係機関等との協議・検討を行う。

<研究成果等の普及>

- ・新たな疑問や問いを導き出すための単元構成の具体例や実践事例、評価関係資料などの成果について、本校ホームページで広く公開する。
- ・北海道教育大学が平成23年度から取り組んでいる「学力向上プロジェクト」と連動し、その成果の普及を図る。